

**[A年] 聖霊降臨節第17主日(2021年9月12日)****【旧約聖書日課】創世記 45章1～15節**

1ヨセフは、そばで仕えている者の前で、もはや平静を装っていることができなくなり、「みんな、ここから出て行ってくれ」と叫んだ。だれもそばにいなくなつてから、ヨセフは兄弟たちに自分の身を明かした。2ヨセフは、声をあげて泣いたので、エジプト人はそれを聞き、ファラオの宮廷にも伝わった。3ヨセフは、兄弟たちに言った。「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり、答えることができなかつた。4ヨセフは兄弟たちに言った。

「どうか、もっと近寄ってください。」兄弟たちがそばへ近づくと、ヨセフはまた言った。「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。5しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。6この二年の間、世界中に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もないでしょう。7神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。8わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです。

9急いで父上のもとへ帰って、伝えてください。『息子のヨセフがこう言っています。神が、わたしを全エジプトの主としてくださいました。ためらわずに、わたしのところへおいでください。10そして、ゴシェンの地域に住んでください。そうすればあなたも、息子も孫も、羊や牛の群れも、そのほかすべてのものも、わたしの近くで暮らすことができます。11そこでのお世話は、わたしがお引き受けいたします。まだ五年間は飢饉が続くのですから、父上も家族も、そのほかすべてのものも、困ることのないようになさなければいけません。』12さあ、お兄さんたちも、弟のベニヤミンも、自分の目で見てください。ほかならぬわたしがあなたたちに言っているのです。13エジプトでわたしが受けているすべての栄養と、あなたたちが見たすべてのことを父上に話してください。そして、急いで父上をここへ連れて来てください。』

14ヨセフは、弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。ベニヤミンもヨセフの首を抱いて泣いた。15ヨセフは兄弟たち皆に口づけし、彼らを抱いて泣いた。その後、兄弟たちはヨセフと語り合った。

**【使徒書日課】ヤコブの手紙 2章8～13節**

8もしあなたがたが、聖書に従って、「隣人を自分のように愛しなさい」という最も尊い律法を実行しているのなら、それは結構なことです。9しかし、人を分け隔てするのなら、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違犯者と断定されます。10律法全体を守ったとしても、一つの点でおちどがあるなら、すべての点について有罪となるからです。11「姦淫するな」と言われた方は、「殺すな」とも言われました。そこで、たとえ姦淫はしなくても、人殺しをすれば、あなたは律法の違犯者になるのです。12自由をもたらす律法によっていずれは裁かれる者として、語り、またふるまいなさい。13人に憐れみをかけない者には、憐れみのない裁きが下されません。憐れみは裁きに打ち勝つのです。

**【福音書日課】マタイによる福音書 18章21～35節**

21そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」22イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。23そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。24決済し始めたところ、一万ドラクム借金している家来が、王の前に連れて来られた。25しかし、返済できなかつたので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。26家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。27その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。28ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。29仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。30しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。31仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。32そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。33わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかつたか。』34そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。35あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

## 「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

## 創世記 45章1～15節

1ヨセフは、そばに立っていた皆の前で、自分を抑えきれなくなり、「皆をここから出してくれ」と叫んだ。それで、ヨセフが兄弟に自分のことを打ち明けたときには、そばに立っている者は誰もいなかった。2しかし、ヨセフが声を上げて泣いたので、エジプト人はそれを聞き、ファラオの宮廷の者も聞いた。3ヨセフは兄弟に言った。「私はヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」兄弟はヨセフを前にして驚きのあまり、答えることができなかった。4ヨセフは兄弟に言った。「さあどうか近寄ってください。」彼らがそばに近づくと、ヨセフは言った。「私はあなたがたがエジプトへ売った弟のヨセフです。5しかし今は、私をここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神が私をあなたがたより先にお遣わしになったのです。6この二年の間、この地で飢饉が起こっていますが、さらに五年、耕すことも刈り入れることもないでしょう。7神が私をあなたがたより先にお遣わしになったのは、この地で生き残る者をあなたがたに与え、あなたがたを生き長らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。8私をここへ遣わしたのは、あなたがたではなく、神です。神が私をファラオの父、宮廷全体の主、エジプト全土を治める者とされました。9急いで父のもとに上り、言ってください。『息子のヨセフがこう言っています。神は私を全エジプトの主とされました。どうかためらわずに、私のところに下って来てください。10ゴシェンの地に住んで、私の近くで暮らしてください。あなたも、息子も孫も、羊も牛も、そのほかすべてのものもです。11飢饉はまだ五年続きますから、あなたも家族も、その他のすべてのものも困らないように、そこでのお世話は私がいたします。』12あなたがたと弟のベニヤミンがその目で見ておるとおり、私自身があなたがたに語っているのです。13エジプトで私がいかに重んじられているかということ、またあなたがたが見たすべてのことを父に知らせてください。そして、急いで父を連れて、ここへ下って来てください。」14ヨセフは、弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。ベニヤミンもヨセフの首を抱えて泣いた。15ヨセフは兄弟皆に口づけし、彼らを抱いて泣いた。その後、兄弟はヨセフと語り合った。

## ヤコブの手紙 2章8～13節

8もしあなたがたが、聖書に従って、「隣人を自分のように愛しなさい」という最も尊い律法を実行しているのなら、それは結構なことです。9しかし、人を分け隔てるなら、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違反者と定められます。10律法全体を守ったとしても、一つでも過ちを犯すなら、すべてにおいて有罪となるからです。11「姦淫するな」と言われた方は、「殺すな」とも言われました。そこで、たとえ姦淫はしなくても、人を殺せば、あなたは律法の違反者になるのです。12自由の律法によっていずれは裁かれる者として、語り、また振る舞いなさい。13憐れみをかけない者には、憐れみのない裁きが下されるからです。憐れみは裁きに打ち勝つのです。

## マタイによる福音書 18章21～35節

21その時、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、きょうだいが私に対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」22イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍まで赦しなさい。23そこで、天の国は、ある王が家来たちと清算しようとしたのに似ている。24清算が始まると、一万タラント借金している家来が、王の前に連れて来られた。25しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。26家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』と懇願した。27家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、借金を帳消しにしてやった。28ところが、この家来は外に出て、百デナリオン貸している仲間の一人に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。29仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』と頼んだ。30しかし、承知せず、行って、借金を返すまでその人を牢に入れた。31仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君に一部始終を報告した。32そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不届き者。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。33私がお前を憐れんでやったように、お前も仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』34そして、主君は怒って、借金を全部返すまで、家来を拷問係〔別訳→牢役人〕に引き渡した。35あなたがたもそれぞれ、心からきょうだいを赦さないなら、天の私の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

**黙想のためのノート****次主日教会暦と聖書日課について**

・9月12日「聖霊降臨節第17主日」の日課主題は「隣人」。旧約聖書日課は、「創世記」から、「ヨセフ物語」のクライマックスで、ファラオの顧問となっているヨセフがかつて自分を陥れた兄たちを前にして身を明かし和解を申し出る箇所。使徒書日課は、「ヤコブの手紙」から、隣人愛の徹底を促し、分け隔てのない憐れみを勧める箇所。福音書日課は、「マタイによる福音書」から、教会共同体において「小さな者の一人」への配慮を説く教えの終わりの部分で、罪を犯した兄弟に対する無制限の赦しを促すために語られた「借金を帳消しにしてもらった家来のたとえ」の箇所。

**旧約日課(創世記45章より)**

・「創世記」は、ヘブライ語正典中「律法」の第一巻に置かれ、ユダヤ・キリスト教において「聖書」正典全巻の第一の書として「聖書」全体を方向づける意義を認められてきた。11章まではメソポタミア世界で広範に共有されていた伝承に基づく「原初史」、12章以下はおもに地域伝承に由来する「族長物語」で構成されている。「族長物語」は、「アブラハム」から始まる4世代の家族物語として描かれるが、前半(12~25章前半)の「アブラハム物語」と後半(25章後半~50章)の「ヤコブ物語」に明確に分けられ、両者を結ぶ物語として「イサク伝承」が組み込まれている。日課箇所は、「ヤコブ物語」の後半(37章以下)に置かれた「ヤコブと息子たちの物語」のクライマックス部分。この物語は、一般には、「ヨセフ物語」とも呼ばれている。

・「ヨセフ物語」は、「ヤコブ物語」の中に組み込まれた物語であるが、それ自体でまとまりのある伝承物語として成立しており、「ヤコブ物語」の他の部分とは伝承系譜が異なるものと考えられる。実際、「アブラハム物語」や「ヤコブ物語」の他の部分で描かれるような登場人物に直接相對される「神」は描かれない。「神」は、「ヨセフ」に対して「夢」を通して飽くまで間接的・示唆的に関与されるだけで、「ヨセフ」は「神」の働きやご計画を概念知として認識する人物として描かれる。

・「ヨセフ」は、「ヤコブ」の十二人の息子の中の一人。「ヤコブ」には、「ラケル」と「レア」という姉妹の妻、またそれぞれの妻に仕える女奴隷が実質的な側女としており、十二人の息子(十一人の娘)は4人の母親から生まれた異母兄弟同士であった。「ヨセフ」は「ラケル」の第一子で、同じ母から生まれた第二子が「ベニヤミン」。「ヨセフ」と「ベニヤミン」は、十二人の息子たちの中では11番目と12番目に誕生した者として描かれており、「ヤコブ」にとって「年寄り」であったことが強調されているが(37:3、42:4など)、そもそもの事の発端として、「ヤコブ」が「レア」よりも「ラケル」を愛していたという伏線がある(29章)。「ヤコブ」のもとで「ヨセフ」が特別扱いされていたこと、「ヨセフ」自身が兄たちに対して無邪気に高慢な態度を示したことなどから、兄

たちから恨みを買ひ、彼らによってエジプトに売られた(37章)。ただし、「創世記」の物語は、実際に「ヨセフ」を連れ去り奴隷として売ったのはミディアン人ら商人たちであったとしており、兄たち自身は自分たちの企みを実行できずに終わっている。これが物語設定の不備なのか、意図的な(兄たちの責任を実質的に回避させる)作為なのかは、はっきりしない。

・日課箇所は、ヨセフが兄たち(人間)の起こしたことを赦す理由として、そこに究極的には大局観に立つ神の計画があったとの理解が示されている(5~9節)。過去の変えることのできない出来事について、神信仰に基づいて解釈を与える(変更する)ことが、自分に対して敵対行為をしてきた者たちに対する赦しと和解の根拠になっている。このような神信仰に基づく事実解釈(の変更)は、「聖書」全体で繰り返し主唱される信仰者としてあるべき態度である。

**使徒書日課(ヤコブ2章より)**

・「ヤコブの手紙」は、伝統的に、「ペトロの手紙一・二」「ヨハネの手紙一~三」「ユダの手紙」と共に、不特定の諸教会に宛てたとされる「共同書簡」に分類されてきたが、近年はこの分類はあまり用いられない。冒頭に記された差出人「ヤコブ」は、使徒として知られるヤコブではなく、「主の兄弟」(1コリ9:5、ガラ1:19など)として知られるエルサレム教会の指導者「ヤコブ」であると考えられている。「主の兄弟ヤコブ」は、福音書で主イエスの兄弟(弟たち)として名の知られる「ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダ」(マタイ13:55ほか)の中のヤコブ。初代エルサレム教会は、主イエスの十二弟子の中でも常に特別扱いされた三人として福音書が伝える「ペトロ、ヤコブ、ヨハネ」を中心に始められたと考えられるが、使徒ヤコブが殉教(使徒12:2)した後に、「主の兄弟ヤコブ」が「使徒ヤコブ」に代わる形で「柱と目されるおもだった人たち」(ガラ2:9)の一人に数えられるようになったと考えられる。「十二使徒」に数えられない「主の兄弟ヤコブ」が指導者の立場に推された経緯は分からないが、彼は、「母マリア」が主イエスの宣教旅行に同行するようになるのに伴って、自らも主イエス一行と行動を共にするようになっていたと考えられ、おそらく、「聖霊降臨」時の「120人」の中に含まれていたのだろう。聖霊降臨前の教会で、「イスカリオテのユダ」に代わる「使徒」として「マティア」が選任されたように(使徒1章)、殉教した「使徒ヤコブ」に代わる使徒として「主の兄弟ヤコブ」が「使徒」の一人に選任されていたという蓋然性は高い。

・日課箇所は、「律法」と「信仰」の関係について教えている箇所の一部。新約中の「律法(ノモス)」には、旧約中の「教え(トラー)」の意味と「法・掟・戒め」などの意味とが混在しており、パウロ書簡にも見られるように、初代教会では「律法」理解についての混乱が見られた。「自由をもたらす律法」(12節)の考え方は、パウロが「ガラテヤ書」で展開した理解に近似する。

## 福音書日課(マタイ 18 章より)

・日課箇所は、前週日課の続きで、18 章冒頭から始まる主イエスの教え(説教)のまとまりの終わり部分。ここで主イエスは、弟子たちの「天の国でいちばん偉いのは誰か」という問いに答える形で、「子供」を具体的に指し示しつつ、「これらの小さな者の一人」と呼ばれる存在に特別な配慮を向け、神の前で群れの交わりを保つことを教えている。この中で「教会(エクレシア)」の語(訳語)が用いられている(18:17)ことから、「マタイ福音書」は、この主イエスの教えを、教会共同体のあり方を示すものとして、ここに伝えている。

・18 章の教えは、特に後半 15 節以降、「これらの小さな者の一人」が「あなたに対して罪を犯した者」に特化して捉えられ、そのような「一人」を神の前に赦して受け入れ、教会共同体の「兄弟」としての交わりを回復・維持すべきことに重心を置いてまとめられている。それは、ペトロが赦しの回数について問うところから始まって「借金を赦された家来のたとえ」に展開する日課箇所のまとまりを、18 章前半の「小さな者の一人」に対する配慮義務」と一体のものとして理解しようとする「マタイ」の意図の反映であろう。「小さな者の一人」に対する一般的な配慮義務を、「マタイ」は、25 章後半で具体的状況を幅広く想定して、主イエスが広範に要求していると描いている。ただし、そこで想定されているのは、教会共同体内でのことではなく、教会外に出て行った社会生活におけることで、広く「生き方」として教えられている。日課箇所では、教会共同体のあり方に主眼を置いており、相互の関係構築の中で、より「天の父」の御心が明示的に反映されることを企図して、「赦し」合いに焦点が置かれているのであろう。

・「借金がある」は、主の祈りで「負い目がある」(6:12)と訳さるのと同じ語、または同根語。福音書で「罪」は、ほとんど常に「借金」の類比として理解されている。

## 来週の誕生日 (9 月 12 日～18 日)

## 主日礼拝の讃美歌から

・21-357 番「力に満ちたる」(= I 77 番「み神はちからの」)は、22 歳で早世した 18-19 世紀英国の詩人 H. ホワイ트가、ドイツのカトリック讃美歌集(1784 年版)で「アヴェ・マリア、光り輝く暁の星よ」に付されていた曲に合わせて作詞した讃美歌。

・21-487 番「イエス、イエス」は、20 世紀スコットランド教会で援手を受けアフリカ宣教に従事した宣教師 T.S. コルヴァンが現地信徒ら自身に伝統音楽に基づいて創作させた讃美歌集『*Fill Us With Your Love*』に収録された讃美歌の一つ。「主の洗足」の記事に基づいて主の愛に従う道を歌う。

・21-513 番「主は命を」(= I 332)は、19 世紀リバイバル運動の中で生まれた福音唱歌の代表作。作詞者ハヴィガは、父が英国教会司祭で、多くの宗教詩を残した(21-512「主よ、献げます」など)

## 21-357「力に満ちたる」

*The Lord of our God is clothed with might*

1. The Lord our God is clothed with might, / The winds obey His will; / He speaks, and, in His heavenly height, / The rolling sun stands still.
2. Rebel, ye waves, and o'er the land / With threatening aspect roar; / The Lord uplifts His awful hand, / And chains you to the shore.
3. Howl, winds of night, your force combine; / Without His high behest, / Ye shall not, in the mountain pine, / Disturb the sparrow's nest.
4. His voice sublime is heard afar, / In distant peals it dies; / He yokes the whirlwind to His ear, / And sweeps the howling skies.
5. Ye nations, bend, in reverence bend; / Ye monarchs, wait His nod, / And bid the choral song ascend / To celebrate your God.

## 21-487「イエス、イエス」

*Jesus, Jesus, Fill Us with Your Love*

Refrain: Jesu, Jesu, fill us with your love, / show us how to serve / the neighbors we have from you.

1. Kneels at the feet of his friends, / Silently washes their feet, / Master who pours out himself for them. [Refrain]
2. Neighbors are wealthy and poor, / Varied in color and race, / Neighbors are nearby and far away. [Refrain]
3. These are the ones we should serve, / These are the ones we should love: / All these are neighbors to us and you. [Refrain]
4. Kneel at the feet of our friends, / Silently washing their feet: / This is the way we should live with you. [Refrain]

## 21-513「主は命を」= I 332

*I Gave My Life for Thee*

1. I gave My life for thee, / My precious blood I shed, / That thou might'st ransomed be / And quickened from the dead. / I gave My life for thee; / What hast thou given for Me?
2. I spent long years for thee / In weariness and woe / That an eternity / Of joy thou mightest know. / I spent long years for thee; / Hast thou spent one for Me?
3. My Father's home of light, / My rainbow-circled throne, / I left for earthly night, / For wanderings sad and lone. / I left it all for thee; / Hast thou left aught for Me?
4. I suffered much for thee, / More than My tongue may tell, / Of bitterest agony, / To rescue thee from hell. / I suffered much for thee; / What canst thou bear for Me?
5. And I have brought to thee / Down from My home above / Salvation full and free, / My pardon and My love. / Great gifts I brought to thee; / What hast thou brought to Me?
6. Oh, let thy life be given, / Thy years for Me be spent, / World's fetters all be riven, / And joy with suffering blent! / I gave Myself for thee: / Give thou thyself to Me.